

埼玉県立加須げんきプラザ

「人間関係づくりプログラム・野外炊事体験」・第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案

1. 単元名 「体験活動を通じて、よりよい人間関係を築こう」

○学習指導要領 総合的な学習の時間 の内容とのかかわり

学習指導要領では、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力」を育成することを目標としている。協働による体験活動を通じて、様々な見方・考え方を働かせて共に課題を解決していくことで、互いのよさを見つけ、尊重し合い、信頼し合える関係、つまりは「よりよい人間関係」を構築していくことを目指す。

【教科横断的な学習による各教科の内容とのかかわりについて】

○学習指導要領 理科 の内容とのかかわり

小学校第6学年では、燃焼の仕組みについて、空気の変化に着目して、物の燃え方を多面的に調べる活動を通して、植物体が燃えるときには、空気中に含まれる酸素の一部が使われて、二酸化炭素ができることや、空気の入替わるところでは燃えるが、入れ替わらないところでは燃えなくなってしまうことを、実験を通して学んでいる。

中学校第2学年では、化学変化と熱の出入りの関係（発熱反応・吸熱反応）について、日常生活で利用されている例と関連させながら学習する。第3学年では、熱の伝わり方について、具体的な体験や身の回りの器具と関連させながら、伝導や対流、放射があることを学習する。

○学習指導要領 道徳 の内容とのかかわり

B 主として人との関わりに関すること

(8) 友情、信頼

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

(9) 相互理解、寛容

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

(15) よりよい学校生活、集団生活の充実

教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。

2. 単元の目標・評価規準

様々な体験活動を通じて、生徒が互いに協働しながら「よりよい人間関係」を形成しようとするとともに、これまで各教科等で学んできた知識や技能、見方・考え方を総合的に働かせて、主体的に課題解決を図ることができる。

育成する資質・能力	目標	評価規準
知識及び技能	・よりよい人間関係を形成するために他者と協働して取り組むことの意義を理解できる。 ・野外炊事体験における効果的な火付けの方法を身に付ける。	・よりよい人間関係を形成するために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 ・野外炊事体験における効果的な火付けの仕方を身に付けている。
思考力・判断力 ・表現力等	・集団内で協議して合意形成を図り、よりよい方向性を見出して課題解決を図ることができる。	・集団内で協議して合意形成を図り、よりよい方向性を見出して課題解決を図っている。
学びに向かう力 ・人間性等	・他者の考えや意見を肯定的に捉え、尊重することで、よりよい人間関係を形成できる。	・他者の考えや意見を肯定的に捉え、尊重することで、よりよい人間関係を形成しようとしている。

3. 単元構想

(1) 集団活動として学習することのよさ

SNSなどの情報伝達技術の発展により、人と人との直接的なふれあいが減少し、学校においてもネット上におけるトラブルによるいじめ問題や、人間関係の希薄化に起因する不登校問題などが大きな課題となっている。そこで、加須げんきプラザでは、いじめ・不登校等の問題を解決するためには、よりよい人間関係を形成することが何より重要ととらえ、令和元年度に「人間関係づくりプログラム」を開発した。その後、様々な教育機関や利用団体に対し、よりよい人間関係を形成するきっかけづくりとして、体験を提供してきた。

その他にも、当プラザでは様々な体験活動を提供しており、その中でも今回行う「野外炊事体験」は、参加者同士の協働が必要不可欠であるとともに、これまで各教科等で学んだ知識や技能を生かし、見方・考え方を働かせることができる体験活動である。SDGsや防災教育などに関連付けて実施することができ、生活体験の中で自分たちが果たすべき役割は何かを考え、実践する機会になると考える。

本単元では、上記の体験活動を通じて、生徒が互いに協働しながら課題解決を図り、「よりよい人間関係」を形成することをねらいとする。そして、本単元を契機として、生徒間に良好な人間関係を築き、それを基盤としたよりよい学級・学年集団を形成することにつなげていく。

(2) 単元計画 (学習過程と活動内容等)

学習過程	活動内容	時数	活動の場
【事前学習】 課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学んだ知識を生かして、効果的な火付けの方法を想起させる。【理科】 ・グループ編成、野外炊事の役割分担を決定する。【総合】 	2	中学校
【体験学習】 情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・「ビーイング」を行う。「よりよい人間関係を築くために、自分たちができること」について、グループ単位で用紙に書き出す。【総合】 ・「野外炊事体験」を行う。【理科】【総合】 ・「人間関係づくりプログラム」を体験する。【総合】 ・「ビーイング」で決めた目標が達成できたか振り返る。【総合】 	6	中学校 または 加須げん きプラザ
【事後学習】 整理・分析 まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を通じて学んだことを今後の生活に生かせるよう、関連する内容項目についての授業を行い、自らの生き方を改めて考える機会とする。【道徳】 	1	中学校

(3) 「主体的・対話的で深い学び」の視点

1) 主体的な学び

① 目指す子供の姿

各体験活動のねらいを理解し、自らの役割を果たすとともに、他者と協働して課題を解決することで、よりよい人間関係を進んで構築することができる。

② 指導のポイント

生徒が主体的に課題を解決するための時間を十分に与え、トライ&エラーを通じて集団として課題を解決できるよう促す。

2) 対話的な学び

① 目指す子供の姿

集団内で積極的に意見交換を行い、合意形成により、課題を解決しようとしている。
また、振り返りにおいては、他者の発言を肯定的に捉え、尊重することができる。

② 指導のポイント

基本的には生徒の活動を見守ることとするが、必要に応じて適切な声掛けを行う。

3) 深い学び

① 目指す子供の姿

活動後において、よりよい人間関係を構築するための自他の発言や行動のよさに気づき、自らさらにより豊かな人間関係を築いていこうとすることができる。

② 指導のポイント

課題解決に導いた生徒の発言や行動に、生徒自らが気づくよう示唆しながら支援する。

4. 体験学習当日の展開【総合的な学習の時間（4時間）、理科（2時間）】

（1）ねらい

- ・「野外炊事体験」において、生徒がこれまで学んできた知識や技能、見方・考え方を総合的に働かせて効果的に火付けをし、災害時等に活用できるように鍋と耐熱性のポリ袋を活用した湯煎による方法で炊飯を行うことができる。
- ・「人間関係づくりプログラム」において、様々なアクティビティを通じて、生徒が互いに協働しながら課題解決を図り、よりよい人間関係を形成しようとする。

（2）展開例 ※野外炊事体験と人間関係づくりプログラムの順序を変えて実施することも可能

活動	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
1 課題 (テーマ) の把握	<p>○はじまりの会を生徒主体で行う。 活動の趣旨や内容について、先生方やプラザ職員の説明を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>全体テーマ 「体験活動を通じて、よりよい人間関係を築こう」</p> </div> <p>○ビーイング（目標・約束の設定）を行う。 7～8名のグループごとに、「よりよい人間関係を築く」ためのグループの目標について話し合い、その目標を達成するための約束を3つ決め、ワークシートに記入する。</p>	<p>◎活動の趣旨についてわかりやすく伝える。</p> <p>◎グループ全員が意見を言う、思いついた人が提案するなど考える方法は様々であるが、最終的に全員が同意して決定するよう促す。 ◎目標や約束の設定が不適切である場合は、メンバーに再考を促す。 ※ワークシートではなく白紙で行う方法もある。</p>	50分
2 野外炊事体験	<p>○野外炊事体験に関する簡単な説明や、安全に関する注意点を聞く。 ○野外炊事体験を行う。 これまでに各教科等で学んだことを生かし、効果的な薪の組み方や着火の仕方をグループごとに話し合い、実践する。 (かまどを組む→薪を組む→着火→鍋を火にかける→おにぎりを作る→試食→片付け)</p>	<p>◎野外炊事の方法については、最小限の情報のみを伝え、できるだけ生徒たちが主体的に知恵を出し合い、協働して活動できるように促す。ただし、安全面の注意については、具体的に説明し、十分に注意喚起する。 ※時間があればカレー作りなどに変更することもできる。</p>	145分

3 中間振り返り	○ビーイング（振り返り①）を行う。 グループの目標・約束を書いた用紙を返却し、野外炊事体験における「よりよい人間関係づくり」について振り返る。	◎グループ内で課題があった場合は、後半の「人間関係づくりプログラム」の活動につなげるよう促す。 ◎必要があれば、約束の内容を追加・修正させてもよい。	20分
4 人間関係づくりプログラム	○人間関係づくりプログラムを体験する。 グループごとに、以下の3種目を体験する。 ①マシュマロリバー ②パイプライン ③フラフープリレー、ヘリウムフープ	◎1つの活動につき30分（活動…25分、移動・休憩…5分）を3回行う。 ◎発達段階を考慮し、比較的難易度が高く、積極的な意見交換や協力が必要なプログラムを実施する。 ◎身体的接触が多い種目については、男女を分けるなどの配慮をする。 ※対象学年に応じて、より難易度の高いプログラムや記録を伸ばすタイプのプログラムに変更することもできる。	90分
5 まとめ	○ビーイング（振り返り②）を行う。 グループごとに目標を書いた用紙を返却し、人間関係づくりプログラムにおける「よりよい人間関係づくり」について振り返る。 ○おわりの会を生徒主体で行う。 感想発表やおわりのあいさつをする。	◎グループの目標が達成できたかどうかを確認させ、達成できたグループを称賛し今後につなげる。	20分

(3) 評価規準

- ・よりよい人間関係を形成するために他者と協働して取り組むことの意義を理解するとともに、野外炊事に必要な技能を身に付けている。(知識及び技能)
- ・様々な体験活動における課題を解決するために、他者の意見を尊重しながら協議し、実践することができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ・活動後の振り返りにおいて、他者の考えや意見を肯定的に捉え、尊重することで、よりよい人間関係を形成しようとしている。(学びに向かう力・人間性等)